三鷹市立高山小学校　令和8年度【　体育　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○友達の良い動きを見付けた児童を価値付けることで、お互いの動きを見たり真似したりする児童が増えた。 ○学習カードに振り返りを記入させることで、活動の中で感じた気付きを言語化させたり全体で共有したりすることができた。その結果、児童の思考を深め、技能を高めることにつながった。 ○全体でのルール確認だけでは動き方やルールが分からない児童は、運動やゲームを繰り返す中で身に付けさせる必要がある。	○運動をすることを楽しみ、意欲的に活動する児童が多い。一方で、運動経験や技能には個人差があり、活動によっては苦手意識をもつ児童も見られる。 ○走る・跳ぶ・投げる・体のバランスをとるなどの基本的な動きについて、十分に身についていない児童が見られる。 ○教師から示された運動には意欲的に取り組めるが、自分で遊び方や体の動かし方を考えたり、よりよい動きを試したりすることには課題がある。	○一斉に同じ運動を行わせる活動が中心になりやすいことが課題である。児童一人ひとりの運動経験や技能差に応じた場面作りをする。 ○単元の中で一つの動きだけを繰り返すのではなく、毎時間複数の動きを経験できるようにし、児童が自分に合った動き方を見付けられるようにする。 ○教師が動き方や方法を教えることが中心となり、児童自身が「どうしたらもっとできるのか」「どんな動き方があるのか」を考え、試す時間の確保が十分ではなかった。 ○単元ごとの学習になりやすく、低学年で身に付ける基本的な動きを、その後の学年の体育学習へどのように繋げていくかという点を意識した指導をする必要がある。
第2学年	○児童の実態に合った場を設定して楽しく運動遊びができる場で取り組めた。 ○補助運動として日常化につながるような動きを取り入れたことにより、休み時間に遊んでいる姿が見られた。 ○学習カードを活用してめあてに対する振り返りをすることで、よりよい振り返りをすることができた。 ○準備運動の際に、主運動につながるような動きを取り入れて、次の動きのイメージを膨らませられた。 ○よい動きを共有する時間を設けたことで、一人ひとりの動きが高まっていた。	○体育の授業に意欲的に取り組んでいる児童が多い。また、身体を動かすことが好きな児童も多い。 ○日常的に身体を動かす機会が少なく、運動能力の偏りがある。また、固定遊具施設が少ないため、多様な運動感覚を身に付けさせることが難しい。 ○体育の授業で行った運動遊びが、運動の日常化につながっていない。 ○ペアやグループで関わる活動が少なかったり、お互いの動きに意識が向いていなかったりするので、自分の動き方の深まりが見えない。 ○自分の運動に対するめあての振り返りが苦手な児童がいる。どのように振り返るかを繰り返し指導していくことで身に付いていくと考える。	○人数、場所、時間を工夫し、児童が主体的に活動できるようにする。 ○準備運動の際に、主運動につながるような補助運動を取り入れて、次の動きのイメージを膨らませられるようにする。 ○運動の日常化につながるような運動遊び（多様な動き）を体育の授業の中で帯活動として設定し、取り組んでいく。 ○授業の中でペアやグループの活動を積極的に多く取り入れていく。また、よい動きを共有できるように、ペアやグループ、全体で紹介する時間を確保し、自分の動き方に深まりが出るように、声掛けをしていく。 ○学習カードを活用して、記入するの際に、具体的な記入方法を明確化し、自分の運動遊びの活動で「何ができたのか」「どうしてできたのか」「何がうまくいかなかったのか」など、よりよい振り返りができるようにする。
第3学年	○ＩＣＴを活用してお手本動画などを自分のペースで確認して真似することで技能の向上につなげることができた。また、お互いの動きを撮影して動きを確かめることで、自分の動きを客観的に捉えて学習に取り組むことができた。 ○学習カードを使用し、児童の思考を促すことができたが、より深く多面的な視点からの思考を促すことができなかったのが課題である。 ○児童の動きを価値付けて、児童が前向きに技能の向上に向かうことができた。	○毎時間、授業で心掛けたことを学習カードに記述させることで、児童が自らの課題を意識して運動に取り組む姿が見られた。３段階の自己評価を取り入れたことで、毎時間の運動を定量的に振り返る習慣が定着しつつある。 ○運動技能の個人差が大きく、特定の児童ばかりがボールに触れて活躍し、苦手意識をもつ児童の活動機会が少なくなってしまう現状がある。今後は、全員が等しくゲームに参加できるよう、ルールの工夫や、個に応じた役割分担の工夫が必要である。 ○チームでの話し合い活動は円滑に行われ、作戦を工夫する姿は見られるが、それを実際の運動場面で体現する（作戦通りに体を動かす）ことへの難しさがある。また、技能差による負けを受け入れられない児童も見られる。 ○多くの児童が体を動かすことに意欲的である。	○前時の振り返り（課題）を読んでから本時の「心掛け」を書くなど、カードの記入プロセスをパターン化する。「めあて→実践→振り返り→次時のめあて」のサイクルを確立させることで、児童が自身の変容や成長を実感できるように指導方法を改善する。 ○特定の児童のみが活躍する授業の改善として、チーム全員がボールに触れてからしかアタック（シュート）できないルールや、苦手な児童の得点を2点にするなどの「特別ルール」を設定する。あわせて、コート数を増やしてスモールステップの場を用意し、全員の触球機会と運動量を確保する。 ○チームでの話し合いから、作戦通りに体を動かすための工夫として、作戦の「視覚化（作戦ボード等の活用）」を図るとともに、結果だけでなくチームの協力過程を価値付ける指導を心掛ける。 ○授業時間を通して力いっぱい動き続ける体力を身につけるために、高い運動欲求を維持しつつ、待ち時間を減らすための運動場所（コート数）の確保や、効率的な場づくりの工夫を継続していくことで現状の維持・向上につなげる。
第4学年	○準備から片付けまでの流れを示すことで自主的に動くことができる児童が増えた。 ○学習カードを活用して、技能のポイントを伝えることで児童が意識しながら学習に取り組むことができた。 ○スモールステップで指導を行うことで技能が習得できる児童が増えた。 ○トリオやグループでお互いの動きを見て高め合う時間を設定したが、アドバイスを伝え合う場面はあまり見られなかった。運動に対する意欲を高める工夫をする必要がある。	○準備や片付け、また運動に対しても自主的に取り組もうとする児童が多い。 ○学習カードを活用して、運動遊びの楽しさに触れ、自分の技能を高めようとする児童も多い。 ○技能のポイントを理解していても、実際にポイントを意識して体を動かすことができている児童は半数程度である。 ○運動の経験の少なさから自分のボディイメージがうまくできない児童も多く、自分の思い通りに体を動かすことが難しい児童もいる。 ○お互いの動きを見て挑戦し合う姿は見られるが、アドバイスをし合う様子は半数程度しか見られなかった。	○単元初めに準備から片付けまでの流れを児童に周知し、自主的に動くことができるように指導していく。 ○学習カードや掲示物を用いて技能のポイントを伝えて、児童が意識しながら学習に取り組めるようにする。 ○スモールステップで指導を行い、新しい技に自信がない児童でも積極的に技に取り組めるようにする。 ○トリオやグループでの学習を取り入れ、児童がお互いに運動に対する意欲を高められるようにする。また、積極的にアドバイスをしている児童を取り上げて価値付けをしていくことで、お互いの技能を高めるアドバイスができる児童を増やしていく。
第5学年	○学習運動アプリを活用し、動きの動画を見せ合ったり、動作のイメージ図を見たりすることで、スモールステップを意識しながら学習することができた。 ○スモールステップで課題を提示することで、自分の課題が明確になり、児童が次の学習の目標を立てることができた。 ○スモールステップを活用することで自分の課題が明確になったが、その課題から正しい練習の場を選択できる児童は少なかったため、教師の声掛けを工夫する必要がある。 ○素早く準備・片付け・整列などをできるように用具の扱い方や整列の仕方などを示し、声掛けする必要がある。	○授業のめあてと活動を明確に提示することで、児童が目的をもって学習することができた。 ○毎時間、個人の学習のめあてを立てて学習に取り組むことで、できるようになったこととできなかったことについて児童が振り返ることができた。 ○スモールステップで課題を提示することで、体を動かすことが苦手な児童も、自分の成長を実感しながら学習に取り組むことができた。 ○学習に必要な道具や学習の場を明確に示すことで、児童が主体的に準備、片付けに取り組むことができた。 ○技のアドバイスをし合ったり、お互いに高め合う声掛けをしたりする児童は３～４割程度である。 ○自分から技を改善するために助言を求めたり、練習の場を工夫しようとしたりする様子はあまり見られなかった。	○授業では視覚的な資料やスモールステップの段階が分かる資料を掲示し、いつでも児童が動きや自分のステップを確認できるようにする。 ○めあてを達成できたかの振り返りを必ず行い、児童が自分の成長を実感し、課題を見付けられるようにする。 ○児童が自分の運動の様子を確認して、動きの修正や改善ができるよう、学習用タブレット端末のビデオを適宜活用する。 ○トリオやグループでの学習を取り入れ、児童がお互いに運動に対する意欲を高められるようにする。また、積極的にアドバイスをしている児童を取り上げて価値付けをしていくことで、お互いの技能を高めるアドバイスができる児童を増やす。
第6学年	○準備・片付け、集合・整列については、できたことを十分に価値付けたことにより、主体的に考え動くことができていた。 ○チーム内での話合いの時間を確保したことで、学び合いをすることができた。 ○学習カードを工夫することで、自分の課題を把握し、振り返りの際にめあてに対して自分の考えをもつことができた。 ○学習用タブレット端末を活用し、友達の良い動きやモデルとなる動きを見たり、自分の動きを動画に撮ったりすることで、自分自身の動きを客観的に捉えることで運動技能が高まった。	○準備・片付け・整列など、基本的な授業の流れを理解し、素早く行動しようと意識している児童がいる一方で、整列が遅い児童もおり時間通りに始められないこともある。 ○チーム内で気付いたことを伝え合い、技能を高め合う様子が見られるが、具体的に伝えることに課題が見られた。 ○学習カードの中に自分の課題に対して適した解決方法を乗せることによって理解が深まった児童がいる。その一方で、学習カードを使いこなせていない児童もいる。 ○学習用タブレット端末を活用し、模範の動画と自分の動きを比べることで、自分自身の動きを客観的に捉えることでき、運動技能が高まった。	○準備・片付け、集合・整列の重要性について指導し、褒めることで十分に価値付けていく。 ○チーム内での話合いの時間を十分に確保し、ポイントを示しながら学び合いを強化していく。 ○学習カードの使い方を繰り返し指導していくことで学びを深めていく。 ○引き続き、学習用タブレット端末を活用し、模範の動画や友達の良い動きや自分の動きを動画に撮ったりすることで運動技能を高める。